

リーダーシップ

参考文献1 『大学4年間の経営学が10時間でざっと学べる』高橋伸夫より拝借

参考文献2 『ケースに学ぶ経営学』東北大学経営学グループより拝借

種々雑多なネットの拾いもの

PM理論（補足でカリスマ経営者）

優れたリーダーとはどんなリーダーか、みんなそんな話が大好きです、戦国時代の武将の話がビジネス誌をにぎわせ、「リーダーシップ論」と称する某大学の人気授業では、経営者を次々と呼んできては、とにかく武勇伝を聴きまくるのだとか。実際、第二次世界大戦の頃までは、リーダーの資質が注目されていました。それが1950年代になると、リーダーの資質ではなく、リーダーシップのスタイルを科学的に研究するリーダーシップ論が台頭します。

アメリカのオハイオ州立大学では、部下の仕事環境を整える構造づくりと部下への配慮の二次元でリーダーシップをとらえ、両方とも高いリーダーシップ行動がよい結果につながるという、ある意味当たり前のことが分かりました。日本でも三隅二不二が、集団における目標達成や課題解決に関するP行動(performance)、集団の維持に関するM行動(maintenance)の両方を兼ね備えたリーダーが望ましいとするPM理論を提唱しました。

PM理論は日本を代表するリーダーシップ理論の1つであり、この理論においては、リーダーシップをP(Performance:目標達成能力)とM(Maintenance:集団維持能力)の2つの能力要素で構成されるとし、目標設定や計画立案、メンバーへの指示などにより目標を達成する能力(P)と、メンバー間の人間関係を良好に保ち、集団のまとまりを維持する能力(M)の2つの能力の大小によって、4つのリーダーシップ・スタイル(PM型、Pm型、pM型、pm型)があるとし、PとMが共に高い状態(PM型)のリーダーシップが最も望ましいとした。

(カリスマ経営者とリーダーシップ)

松下電機産業(現、パナソニック)の創業経営者で「経営の神様」と言われた松下幸之助をはじめとして、リクルートとダイエーの創業者である江副浩正と中内功は、新たな事業を創造し急成長を遂げることによって成長神話を生み出し、カリスマの人間の能力を超えた神通力があると思われるようになり、そのリーダーの言葉や行動は絶対的な影響力を持ち始めて独自の組織文化を形成します。なお、一般的に、世の中や組織に混乱が生じて人々の不安が高まると、こうしたカリスマ的リーダーが囑望される傾向があります。